世田谷区誌研究会 会　報

令和７年8月号
NO65

編集人　野岸敏雄
天海敏彦
連絡先：kushiken0817@yahoo.co.jp
ホームページ：https://setagaya-kushiken.jimdofree.com/

盛夏の候、会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。



6月号、7月号では「夏の大祓」にちなみ、健康づくりも兼ねて世田谷神社めぐりへと外へ出かけることをお勧めしました。半年の厄払いはおすみでしょうか。　さて今年は、例年にも増して厳しい暑さが続いています。どうか無理をなさらず、涼しい部屋で世田谷の思い出でと100年先を予想する読み物を用意しました。

また、機関誌「せたかい」から山本隆俊氏の三軒茶屋の思い出を復刻しました。氏は「石橋楼四世」として三軒茶屋の思い出でを戦前、戦中、戦後32景づつ追加4景をいれて全百景を連載されています。今回は紙面の都合で戦前・戦中の一部を掲載し順次連載予定です。

石橋楼は江戸時代、信楽屋・角屋・田中屋と三軒茶屋の語源となった三軒の茶屋のひとつ信楽屋が名を改めて昭和20年まで営業していました。連載前に事前にお読みになりたい方は世田谷区中央図書館。国立各界図書館にて閲覧可能です。三軒茶屋三十二景は42，43，44号に、また同氏は石橋楼当主として45号は「石橋楼覚書」46号「続・石橋楼覚書」が投稿されています。

三軒茶屋大三角事典　　発行　生活工房



三軒茶屋の玉川通りと世田谷通りに挟まれた三角地帯を核に歴史や文化、人々の暮らしをまでを含めて「大三角地帯」と呼ばれる地域の字引です。

・戦後の闇市を起源とする飲食街
・細い路地が迷路のように入り組み、昭和の雰囲気を色濃く残しています。
・一方で、若い店主による新しい店も増え、昔ながらの店と新しい文化が共存してます

この冊子はキャロットタワーで2026年1月から3月まで展示会で用意した資料と来場者のコメントをまとめたものである。

郷土史はいろいろな角度から研究されています。この冊子は世田谷文化生活情報センター生活工房発行されたものを分けていただきました。この地域の皆様の思い出など生活工房へお寄せください

「玉川野毛町パークらぼ」



野毛大塚古墳を有する玉川野毛町公園の拡張に伴いこの7月18日にオープンした公園です。この公園が目指すのは100年後も地域に愛される「暮らしの舞台」ということで従来の公園というイメージと違う公園をめざしています。

公園というとブランコ。滑り台を思い浮かびますが少子化であったり、遊具での事故など管理の問題も起きています。
100年後の公園として地域と共生しようという公園作りを目指しています。
郷土史の愛好家として過去だけでなく将来の公園の目指す方向を見るのも良いかと思います。
秋風の吹く頃、散策はどうでしょうか

声を出して読む論語

8月8日土曜日1時より開催　暑さに負けず「子曰く」　皆様のご参加おまちしてます